



畔蛸町でアオサの収穫が始まりました。干潮に合わせて収穫され、海水でよく洗って異物を取り除き、脱水・乾燥して出荷されます。畔蛸町青さのり部会代表の家田和昌さんは「今年は上出来」と話してくれました。畔蛸町では20～30代の若い世代もアオサ養殖業を営んでおり、同会では1月から4月にかけて収穫作業をします。

アオサは伊勢志摩サミットでは各国首脳にも提供され、三重県を代表する県産品として「三重ブランド」にも認定されています。

色鮮やかで香り豊かなアオサ収穫



1月3日、安楽島町の満留山神社で今年1年の吉凶を占う弓立神事が行われました。

この神事は江戸時代から続いており、地元の男性が放つ矢が約15メートル離れた的に当たると観衆から「アターリー」と歓声が上がりました。

今年の射手を務めた浦田龍一さんは「初めてでプレッシャーもあったがやっているうちにのめり込んでしまった。今年は成長の年にしたい」と話してくれました。

ゆみたて 弓立神事で大漁豊作祈願



1月17日、国崎町の前の浜でノット正月が行われました。ノット正月とは正月神をわら舟にのせ、火を放って海に送り出す行事のことで、毎年1月17日に行われます。文化庁が認定する日本遺産の構成文化財の一つにも選ばれており、今年は約40人の海女らが浜に集まりました。海女らは、石の上にけんちんと呼ばれるなますや赤飯などのお供えをして大漁を祈願し、わら舟を作り上げました。

参加した河村いく子さんは「大きいアワビを今年も獲らせてくださいと願いを込めている」と話してくれました。

国崎町で大漁と安全を祈願



1月17日、市立海の博物館と東京日本橋にある三重テラスとをオンライン中継し、鳥羽高校の里中凜さんらによる海女VR映像の記者発表が行われました。VR映像制作は日本エイサー株式会社、株式会社アルファコードの支援を受けて行われ、VRゴーグルを装着すると、石鏡町の風景や海女さんとの語り、海女漁の様子などを見渡すことができ、実際に石鏡町の海女と交流する感覚を味わうことができます。

完成した海女VR映像は1月18日から5月上旬まで市立海の博物館で来館者に一般公開されます。

海女VR映像 鳥羽高校が制作・披露